

4月からの緊急事態宣言解除後、2か月遅れでスタートした2020年度の歩みですが、新型コロナウイルスの感染状況がここ最近になって再び心配になってきました。昨日は成田空港等で海外から到着した中に20名を超える感染者が確認されたとのことでした。都内の保育園や幼稚園等での小さな子ども達への感染のニュースには、他人事ではないと毎日に不安や緊張が増えています。そんな中に在って、九州地方や長野県・岐阜県を始め日本のあちこちで起こった突然の大豪雨による甚大な被害の様子には、胸が締め付けられ言葉を失ってしまいました。今もまだ孤立したままで辛い思いをされている方々のもとへ1日も早く救助の手が届きますように、そして今回の災害によって失われた多くの方々の尊い命とご家族の方々の上に神様の慰めと平安がありますように心からお祈り致します。これからの季節、台風や大雨の襲来・地震などの自然災害は確実に想定しておかなくてはならないですから、保育園としても全職員の危機管理に対する意識と出来る限りの備えをより強化し、子ども達の安全に努めながら日々の保育に取り組んでいこうと思っています。また今年度は“コロナ禍の中での保育”であることを踏まえて毎日を過ごしていますが今まで行ってきた様々な行事のほとんどを中止または延期せざるを得ない現状に正直、残念…というより、皆、あきらめきれない思いが強く、大変悔しい気持ちでいっぱいです。この7月の時点で『入園式・保育参加・保育園をピカピカにしよう』を取りやめました。卒園生が年に一度集まるのを心待ちにしている6月恒例の『同窓会』も行えませんでした。そして例年であれば今頃の年長組の子ども達は『お泊り会』に向け皆で話し合いながら自分達で計画を立てて様々な準備のためにクラスとして取り組んでいる時はずでした。自粛要請期間が終了しようやく全員の顔がそろって1か月間、子ども達の心身の安定を優先しながら、それぞれのクラスをまとめるためにゆったり時間をかけてきた毎日でした。でもそれは昨年度までのような生活とは全く違う形で、ずっと当たり前積み重ねてきた“仲間と協力する”“保育園全員で1つのことに取り組む”“皆で心を合わせる”という体験を実際に積んできていない分、その経験値はやはり下がってしまっていると思います。コロナによって奪われてしまったことで、子ども達にとって、私達保育者にとって、また保育園にとって行事というものの存在、その大きさや尊さを改めて痛感させられました。けれどもその中で私達はふと「ほんとうにこれでいいのだろうか」と立ち止まりました。そして今もずっと考え、毎日毎日悩み祈り、毎日毎日真剣な話し合いを続けています。コロナから命を守るためには人に触れない・人から離れる・傍で分かち合えないのです。でも「保育とは何か」という原点に立ち返る時大きな矛盾の崖に立たされてしまうのです。幼な子達にとって、心や脳の健全な発達を育むために無くてはならないものは温もりです。人と人との肌のふれあいこそが子どもの心を育てます。人としての大切な土台を築きます。友達と力を合わせる事・話し合うこと・笑い合ったり怒ったり泣いたりはしゃぐこと同じ時空の中で共に経験することで、子ども達は一人の人として学び、成長していきます。保育は、その大切な土台作りのために在り、保育園は子ども達の人生の試行錯誤の場です。私達はこれからもずっとこの葛藤を抱え続けながら、この矛盾と向き合い続けながら、毎日毎日考え悩み祈り真剣に話し合っって子ども達の最善のために前進していきます。行事に代わる形で子ども達の楽しく安全な園生活を皆で心を込め築いていきますので、よろしくお祈り致します。尚、新しい事に関してはその都度お知らせしていく予定です。世界中の人々の心に、神様の平安と愛が豊かに注がれますようお祈り致します(石田 記)

「あなたのしようとする事を主に委ねよ。そうすればあなたの計画は揺るがない。(箴言16:3)」